

# 法学の方法

田中 亘 編著, 飯田 高 = 石川博康 = 稲谷龍彦 =  
加毛 明 = 巽 智彦 = 得津 晶 = 西内康人 =  
林 知更 = 藤谷武史 = 矢作 健 著

### 担当編集から

法学の「方法」や「方法論」といわれたら、何を考えるでしょうか。本書の第1部は、研究・教育の第一線で活躍する研究者が、それぞれこの問いに向き合って執筆した9つの論文から成っています。読み比べると、法学内部での分野の違いにかかわらず、共通する部分や異なる部分が見えてくると思います。

第2部は、「法学の方法」と題する座談会の記録です。第1部の論文でも取り上げられたいくつかのテーマについて、率直な意見が交わされています。

論文も座談会も、一筋縄ではいかない難しい内容を扱っていますが、研究者を目指す方だけでなく、法学の勉強をしている方にぜひ読んでいただきたいと思います。本書で論じられているのは、法学という学問のあり方そのものに関わる問題です。積み重ねられた議論を踏まえ、さらにその先へ向かうために何が求められるか。本書を、法学の「いま」と「これから」を知るための手がかりとしていただければ幸いです。(T)

### Point

座談会→興味のある論文→複数の論文を読み比べる, という順番がおすすめです。

## 【第1部 論文】

法学方法論の無さとその原因に関する一考察

— 事象分析と価値判断 (西内康人)

法解釈学と法史学 (石川博康)

法律学的憲法学の基層

— 憲法史・国家論・統治機構を素材として (林 知更)

法社会学の方法は法解釈にどう役立つのか (飯田 高)

経済学を用いた法学へのアプローチ (矢作 健)

法学のフィクションに対する向き合い方 (田中 亘)

「法と経済学」への弁明

— 法律学至上主義の復興と功利主義の徹底 (得津 晶)

「法学」の領分

— 法学方法論の〈文脈〉に関する一管見 (藤谷武史)

物語としての法

— 能動的推論・記号創発システム論と法学の方法論 (稲谷龍彦)

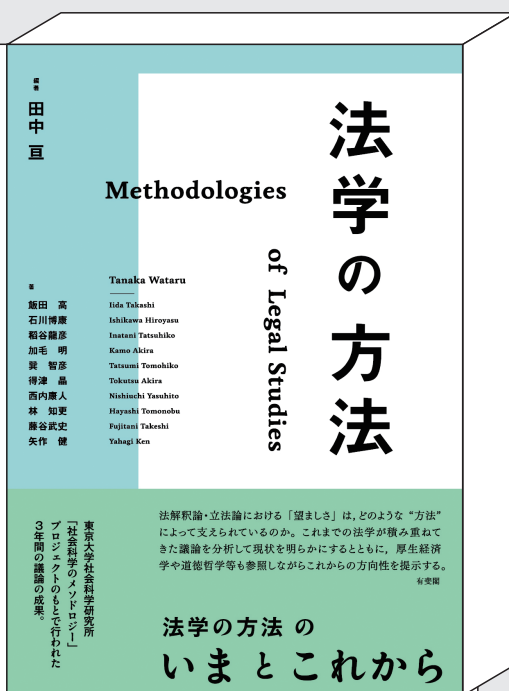
## 【第2部 座談会】

「法学の方法」

(田中 亘・加毛 明・石川博康・稲谷龍彦・巽 智彦・藤谷武史)

レベル - 用途 - 対象  
上級 研究 学部 LS 研究

2026年3月発売 / 498頁 / 定価6600円(税込)  
A5判 / 上製



BOOK INFORMATION



詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。